

知楽会◆講演テーマ

いまさら何故詩吟なのか？

詩吟の歴史と魅力を探る

講師：福井 美行（鈴木吟亮）
会員番号 1526



自己紹介

講師・福井 美行（鈴木吟亮）
会員番号1526

東京理科大学出身。
広告代理店勤務を経て、(株)フレム設立。

2008年には韓国現地法人の
(株)フレムコリア設立。日本法人の韓
国でのマーケティングサポートを行
う。近年は日韓のデジタルコミック
分野での事業展開を行う。

企業経営をしながら家業である詩吟
流派「吟亮流」の三代宗家として活
動。吟亮流は創立九十五周年を迎
る老舗流派。

詩吟の普及団体である**公益財団法人
日本吟剣詩舞振興会理事**を兼務。

DFに本年加入。詩吟同好会にて活
動させていただく。

<https://www.youtube.com/watch?v=1HNADpXv3T4>

第55回全国吟剣詩舞道大会(日本武道館) DF詩吟同好会7名出場！



本日のお話

(1) 詩吟の歴史(歴史の中の詩吟)

① 江戸時代

② 明治大正時代

③ 戦前から戦後

(2) 詩吟で好まれる漢詩と和歌

(3) 「ディレクトフォース讃歌」披露

おまけ

今日の詩「坂本龍馬を思う」

(1) 詩吟の歴史（歴史の中の詩吟）

詩吟の歴史は、
江戸時代にはじまりました。

現代吟詠は江戸の私塾からはスタート！

江戸時代後期、一部の私塾や藩校において漢詩を素読する際に独特の節を付すことが行われたのが、今日の詩吟の直接のルーツです。

特に、日田の咸宜園や江戸の昌平黌において行われていた節調が、多数の門人によって日本全国に広められました。

江戸時代の私塾＝詩吟でよく詠われる詩人が主宰

中江藤樹の「藤樹書院」（諸生と月を見る）

荻生徂徠の「護園塾」（夜墨水を下る）

菅茶山の「廉塾」（冬夜書を読む）

広瀬淡窓の「咸宜園」（桂林荘雜詠諸生に示す）

林羅山「昌平饗」（武野の晴月）

流れは全国へ：藩校と私塾が育んだ多様な吟

- 昌平壇で学んだ俊才たちが帰藩し、各藩校で教鞭をとることで、詩吟は全国に広まった。
- 各地の藩校から生まれた吟：仙台（養賢堂）、米沢（興譲館）、会津（日新館）、水戸（弘道館）、熊本（時習館）など有名。当初は流派というより、土地の訛りや師の癖といった程度であった。
- 私塾の隆盛：商工業の発達に伴い、庶民教育のための私塾が急増。
- 後世の流派の祖：この時代、特徴的な吟法を持つ学者たちが登場。
 - 亀井南冥（福岡）：南冥流
 - 廣瀬淡窓（豊後日田）：淡窓流
 - 頼山陽（京都）：山陽流





吟詠の文法を確立した広瀬淡窓

- ・ 広瀬淡窓 (1782-1856) : 私塾「咸宜園」の創設者。教育の一環として詩吟を活用。塾歌『休道他郷苦辛多』を合吟させ、生徒の士気を高めた。

現存する音源

昭和期に最後の塾生の一人、清浦奎吾（元総理大臣）が録音したレコードが唯一無二の資料として残る。その吟調は、後の勇壮な詩吟とは異なり、謡曲に近い悠然としたものであった。



桂林莊雜詠諸生に示す

淡窓流の最大の功績：「二句三息」の確立

山川草木 息
轉た荒涼 息
十里風腥し 息 新戦場

承句・結句の二字目までを一息で吟ずるこの手法は、現代吟詠のほぼ全ての流派で採用されており、淡窓流の最も重要な遺産である。

道うことを休めよ他郷 苦辛多しと
同袍友有り 自ずから相親しむ
柴扉曉に出すれば 霜雪の如し
君は川流を汲め 我は薪を拾わん

清浦奎吾 元内閣総理大臣。 1850年-1942年

江戸時代の漢学塾・咸宜園の詩吟スタイル（淡窓流）を晩年、自身の声でレコードに残し、その精神（溫柔敦厚／人柄が穏やかで優しく、情が深く誠実なこと）を吟詠家に説いた歴史的な証言者。

明治政府の開明的な法制官僚として法治国家建設に貢献する一方で、大正デモクラシ一期において政党政治を軽視する超然主義を掲げたため、時代の変化と反発を招いた政治家。

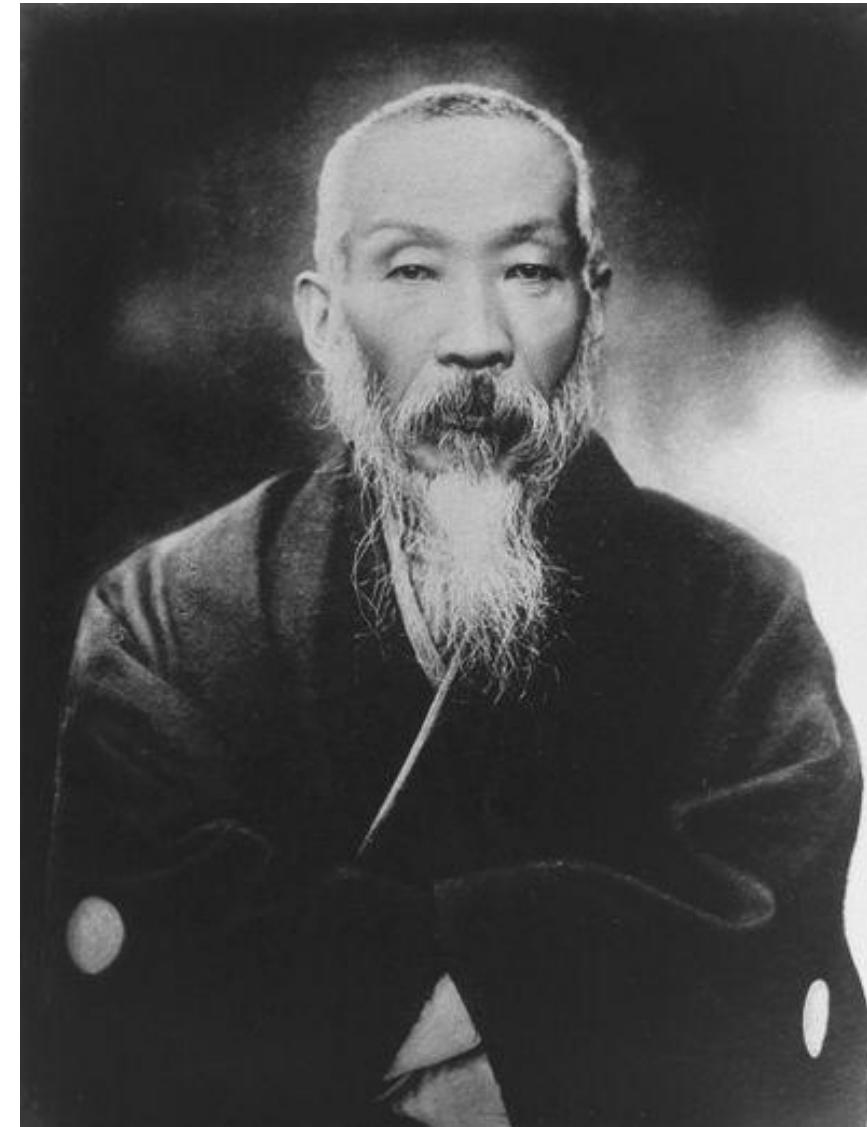


杉浦重剛 1855年-1924年

杉浦は、東宮御学問所御用掛として進講していた皇太子（後の昭和天皇）の前で、雲井竜雄の詩『釈大俊を送る』を詠じた。

志が高くても辛抱する時があり、活躍する時をじっと待つ、という教訓を説いた。

このエピソードは、詩吟が精神修養や教訓の手段として用いられた象徴的な例として資料に記録されている。



(1) 詩吟の歴史（3つの流れ）

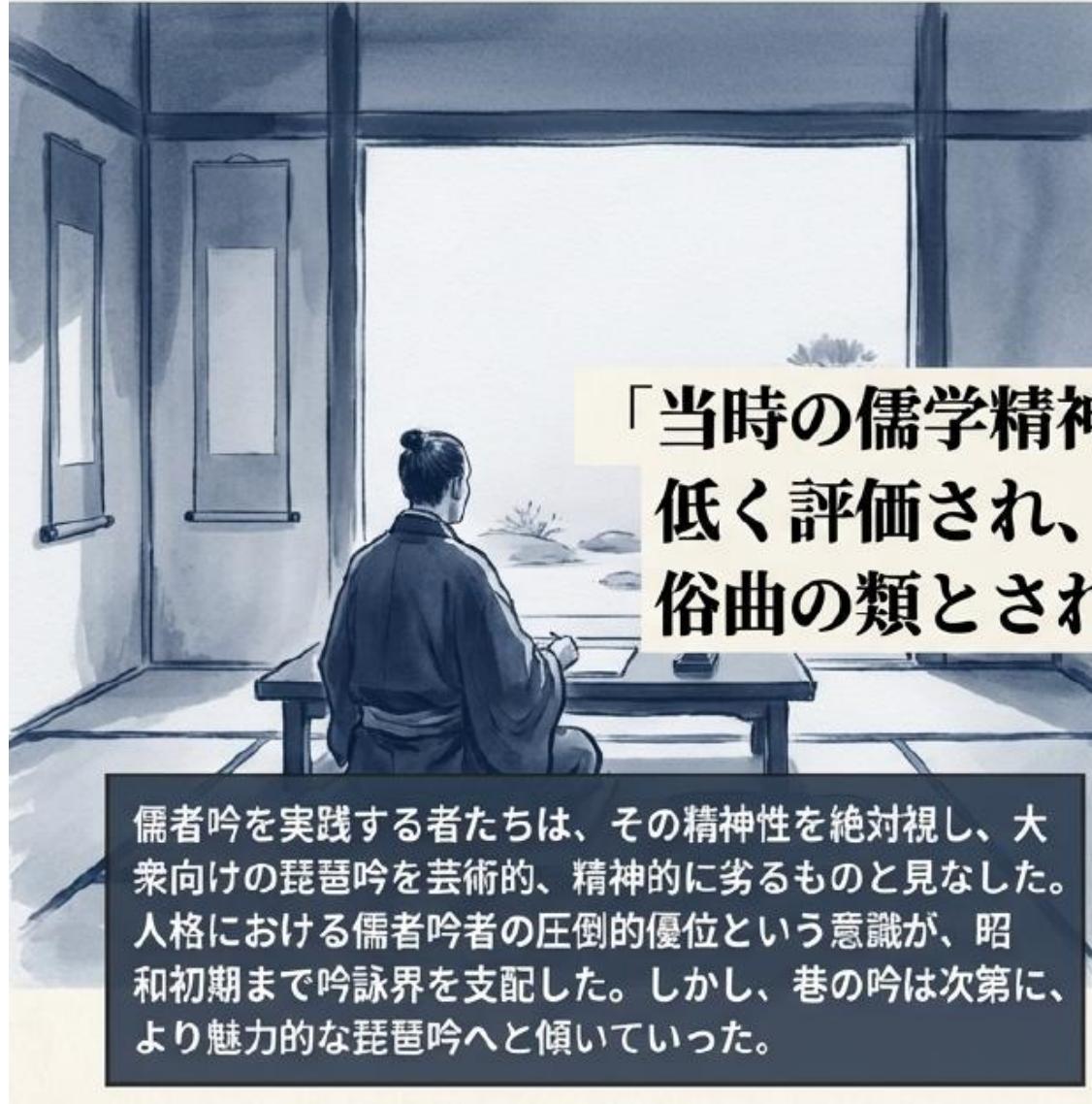


大衆の心をつかんだ琵琶吟

職業琵琶師たちは、物語性を高めるために琵琶歌に和歌や漢詩を取り入れた。白虎隊や川中島といった劇的な題材が、琵琶の音色と哀調を帶びた節回しと融合し、大衆に熱狂的に支持された。これは「聴かせる」ための吟詠であり、その本質は芸能にあった。

(1) 詩吟の歴史（3つの流れ）

精神と芸能の断絶：知識層の評価



儒者吟を実践する者たちは、その精神性を絶対視し、大衆向けの琵琶吟を芸術的、精神的に劣るものと見なした。人格における儒者吟者の圧倒的優位という意識が、昭和初期まで吟詠界を支配した。しかし、巷の吟は次第に、より魅力的な琵琶吟へと傾いていった。



「当時の儒学精神をもった知識層から
低く評価され、芸能詩吟の名称で
俗曲の類とされていたのです。」

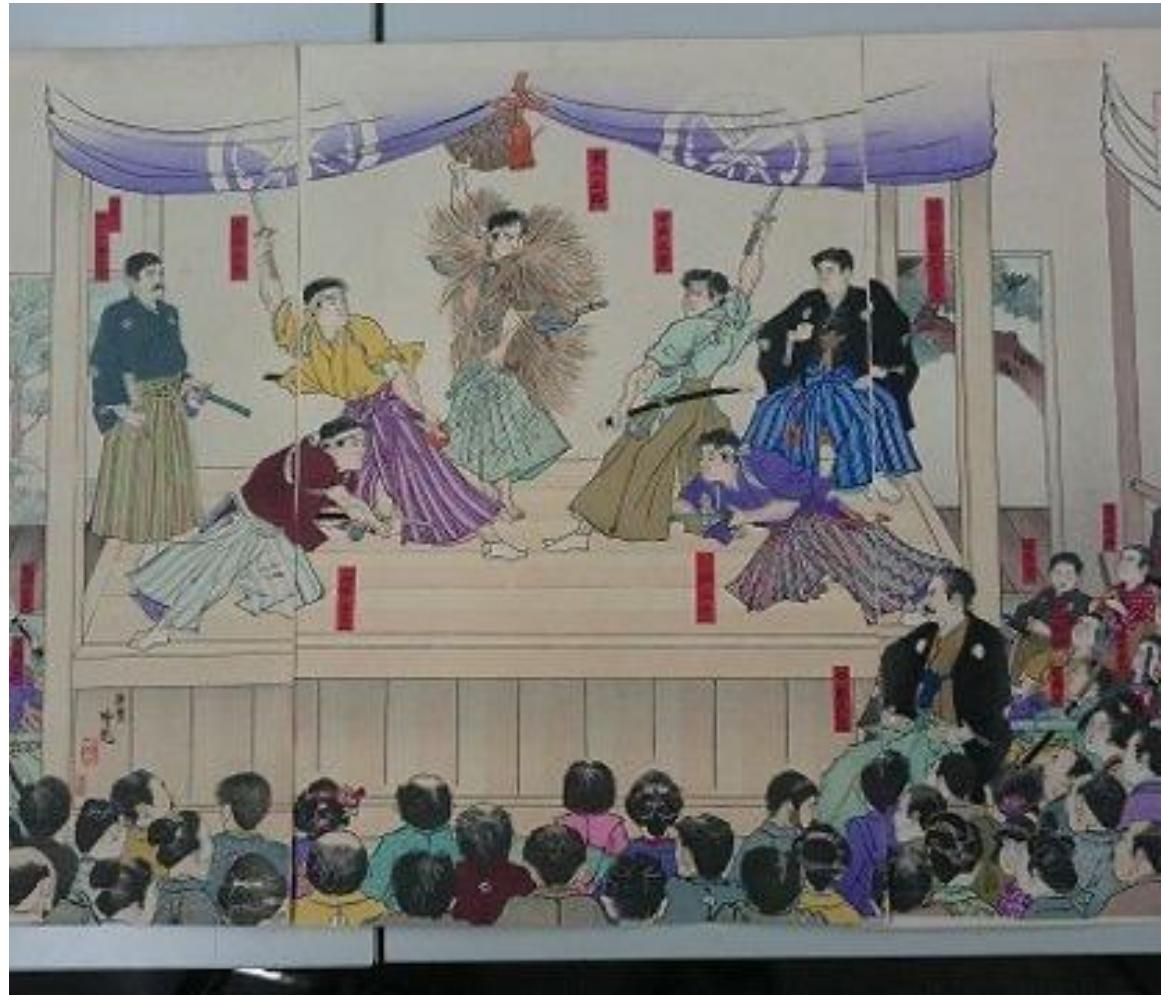
剣舞劇に合わせた詩吟

明治維新で職を失った武士。

剣術を生かした職業として剣舞が発祥。

勇壮かつ重々しい吟法が好まれた。

漢詩の意味に重点を置いた昌平坂系とは異なるメリハリ重視の吟詠で、琵琶吟VS儒教吟とは、別の第3の勢力となる。



(1) 詩吟の歴史（歴史の中の詩吟）

詩吟は、

明治から戦前まで

歴史に翻弄されました

(1) 詩吟の歴史（明治大正時代）

明治の危機と生存：書生文化と剣舞の中で

- 明治維新後、政府の西洋音楽偏重政策により、日本の伝統音楽は衰退。詩吟も例外ではなかった。
- 詩吟は、学生（書生）たちが闇歩しながら吟ずる「逍遙歌」として生き残る。当時は唐詩選を吟ずることから「トッセン」とも呼ばれた。
- また、流行した「剣舞」の伴奏音楽（地方）として重要な役割を担い、悲憤慷慨の調子がさらに定着した。



歴史的資料：

1894年（明治27年）、尾崎弥太郎が著した『日本詩吟集』。これは現存する最古の五線譜による詩吟の楽譜であり、当時の「書生吟スタイル」の姿勢（両肘を張り、両手を腰骨の上に置く）も記録されている。



昭和初期 ラジオとレコードの普及で詩吟ブーム！

- 大正から昭和初期は、産業革命の影響でラジオやレコード機が普及。
- 各地にラジオ局が開業し、レコード会社も詩吟を録音し始める事になる。
- その勢いが大学生にも伝搬し、詩吟部が続々と創部された。

大学詩吟の隆盛

昭和9年11月、日本学生連盟の結成と、その記念吟詠大会が渋谷の全国神職会館で行われた。

この連盟は、吟詠報國の誠を致すための団結であった。

参加校

二松学舎、大東文化学院、日本大学、大正大学、早稲田大学、国学院大学、専修商業、市立二中、早稲田中学、保善商業、京橋商業、芝中学、府立一商、日本大学中学、大成中学、明星中学、等。

☆現在は、慶應、早稲田、明治、関西大、岡山大、等、少数になっている。

政治との関わりが強まる

満州事変を契機として国民精神も張りつめ、欧化主義よりも日本精神の復興が叫ばれた。

戦争が近づき、軍部の目的意識が根底に働き、詩吟が脚光を浴び、精神的支柱として志を詩吟に託して吟じ始めた。

当時の詩吟の指導者たちは、積極的に高級将校を詩吟団体の会長や顧問に依頼。

軍部は**詩吟こそ国民精神の作興には不可欠で、唯一の邦楽であるとして利用奨励**し、両者相寄って詩吟を復興発展せしめた。



(1) 詩吟の歴史（戦前／戦後）

転換点：昭和九年、初の全国詩吟大会



この大会には、精神派の「儒者吟」、音楽派の「琵琶吟」、そして「剣舞」の三派が集結した。

儒者吟系の人物が主催したにもかかわらず、「人前で吟ずる」という行為そのものが、詩吟の本質を内面的な精神修養から、他者との優劣を競う表現活動へと変容させるきっかけとなった。

大日本吟詠聯盟 理事

伊藤長四郎 糟谷耕象 木村岳風
岩淵神風 吉村岳城 木邨眞祐
磯部賀堂 山田積善 湯澤天真
本間清郷 矢橋 學 宮崎喜太郎
大麻博之 真子西洲 諸富一郎
岡田信蔵 眞尾昇雲 鈴木吟亮
鶴田旭窓 雨宮國風 鈴木凱山
小田原國尊 佐々木孝吾 家入明
渡辺綠村 佐々亮齋 伊藤秀峰



(1) 詩吟の歴史（戦前／戦後）

(1) 詩吟の歴史（歴史の中の詩吟）

詩吟は敗戦から、
大きく変容していきました。



- 1945年の敗戦後、GHQ占領下で詩吟は「軍国調」「逆コース」として排斥され、冬の時代を迎える。
- 名称の転換：生き残りのため、武張ったイメージの「詩吟」から、より芸術性を感じさせる「吟詠」へと看板を塗り替えて再出発。



- 静かなブーム：昭和26年頃から、吟詠は戦前を遥かに超える爆発的な人気を獲得。
 - 発声：美しい声を重視する「ベルカント派」とも呼べる傾向が主流に。
 - 担い手の変化：戦前の青少年男子中心から、戦後は女性の進出がめざましくなり、現在では質・量ともに男性を凌駕する勢いとなっている。

(3) 詩吟の音楽的特徴

中国から伝搬した文化としての漢詩、そして
平安時代に唐風文化から日本独自の和歌朗詠が生まれた。
詩吟は音であるため、どのように詠われているかは不明・・・。



(3) 詩吟の音楽的特徴

中国から伝搬した文化としての漢詩、そして
平安時代に唐風文化から日本独自の和歌朗詠が生まれた。
詩吟は音であるため、どのように詠われているかは不明・・・。

江戸時代
漢詩教育
としての詩吟

伝統音楽からの
系譜
としての詩吟

明治維新で失職した
剣士を救う職業
としての剣舞吟



(3) 詩吟の音楽的特徴

中国から伝搬した文化としての漢詩、そして
平安時代に唐風文化から日本独自の和歌朗詠が生まれた。
詩吟は音であるため、どのように詠われているかは不明・・・。

江戸時代
漢詩教育
としての詩吟

伝統音楽からの
系譜
としての詩吟

明治維新で失職した
剣士を救う職業
としての剣舞吟

戦前は政治プロパガンダに利活用された詩吟
(3つの流れが統合)

戦後は女性を中心となって総合芸術になった詩吟

(3) 詩吟の音楽的特徴

平安時代に成立した詩吟は、中国から伝搬した古文詩の漢詩、そして日本固有の歌謡が合体して生まれた。

常に歴史の一部として存在してきた詩吟。

歴史の中に生きる人々の心を表現。

詩吟から知ることが出来る歴史。

現在の世界情勢や国内の文化芸術を
映す鏡のような現代の詩吟。

日本財団も注目し、詩吟への助成活動を
60年刊続いている。

戦後は女性が中心となり、女性詩人による詩吟が盛んになった。

(1) 詩吟の歴史(現在)

日本吟剣詩舞振興会を中心となって、若手育成を主眼とした事業を積極的に展開しています。



(2) 詩吟で好まれる漢詩と和歌10選

YOUTUBE検索上位から推察する人気吟題

富士山
青葉の笛
涼州詞
静夜思
大楠公
春暁
川中島
春望
江南の春
白虎隊

石川丈山
松口月城
王翰
李白
徳川斉昭
孟浩然
頼山陽
杜甫
杜牧
佐原盛純

傾向：

- ・女性に人気の抒情的な詩が多い。
- ・日本は近代詩、中国は唐詩。

戦後の女性の詩吟ブームを支えた和歌。

- | | |
|------------|--------|
| 「和歌 田子の浦ゆ」 | 山部赤人 |
| 「和歌 天の原」 | 阿部仲麻呂 |
| 「和歌 幾山河」 | 若山牧水 |
| 「和歌 白鳥は」 | 若山牧水 |
| 「和歌 敷島の」 | 本居宣長 |
| 「和歌 ふるさとの」 | 石川啄木 |
| 「和歌 わが胸の」 | 平野国臣 |
| 「和歌 あさみどり」 | 明治天皇御製 |

富士山 石川丈山

仙客來り遊ぶ 雲外の嶺
神龍栖み老ゆ 洞中の淵
雪は紈素の如く 煙は柄の如し
白扇倒に懸かる 東海の天

青葉の笛 松口月城

一の谷の軍營 遂に支えず
平家の末路 人をして悲しましむ
戦雲収まる処 残月有り
塞上笛は哀し 吹きし者は誰ぞ

田子の浦ゆ 山部赤人

田子の浦ゆ うち出でてみれば 真白にぞ
富士の高嶺に 雪は降りける
田子の浦ゆ うち出でてみれば 真白にぞ
富士の高嶺に 雪は降りける

新作漢詩
「ディレクトフォース讃歌」
を吟じましょう

詩吟（吟詠）基礎知識

① 日本語のアクセント

・アクセント（頭高、平板、中高）に基づいてメロディが作られている。

② 言葉と節調

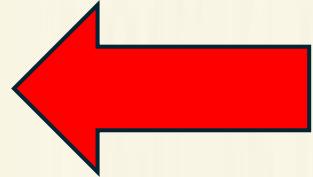
- ・言葉と言葉の間が「節調」
- ・「節調」で高音部、中音部、低音部を繋ぐ

③ 音階

- ・「ミファラシド」のみ
- ・「ミ」が基音

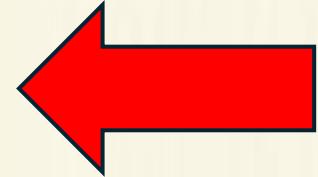
④ 詩に込められた想いを自分の心で詠う。上手下手はその次！

デイレクトフォースの
事業や理念を元に
七言絶句のタイトルを
生成してください



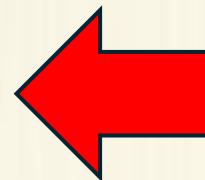
英知継承

デイレクトフォースの
事業や理念を元に
七言絶句のタイトルを
生成してください



英知
继
笑

英知継笑のコンセプトで
七種絶句を生成してください



ディレクトフォース賛歌

英知継笑の詞

尽きせぬ探求 知識を堪える

学ぶ姿は 永遠に若立つ

清き流れは 社会に巡り

真の貢献 笑顔に昇華す

(4)「ディレクトフォース讃歌」披露

英知继续の詞

ディレクトフォース讃歌

真の貢献
笑顔に昇華す
清き流れは社会に巡り
学ぶ姿は永遠に若立つ
尽きせぬ探求
知識を堪える

低音部

高音部

ディレクトフォース讃歌
英知継笑の詞

尽きせぬ 探求 知識を 憧える

学ぶ姿は 永遠に 若立つ

清き流れは 社会に 巡り

眞の貢献 笑顔に 昇華す

1867年12月10日

近江屋事件

坂本龍馬を思う 河野 天籟

幕雲日を掩うて日将に傾かんとす
南海の臥龍帝京に翔る
一夜狂風幹を折ると雖も
維新の大業君に頼つて成る

幕府の力も落ちて今にも国運が傾こうとしている時、
土佐の坂本龍馬が、新しい国づくりのため、大政奉還
を推進すべく京都を駆け巡った。

だがある夜、荒れ狂う風が大樹を吹き折るように、
龍馬は明治維新を見ることなく凶刃に倒れた。
その後、維新的大業が成ったのは、
龍馬の命を賭けた働きがあつたおかげである。

おまけ：今日の詩「坂本龍馬を思う」